

グローバル人材を育む多言語教育の「今」に触れるイベントを開催

3言語以上を使い社会へメッセージを発信する【若者による多言語プレゼンテーション大会】

3月10日(日) 10:00~高校生部門 13:15~大学生・社会人部門 東京ビッグサイト 国際会議場

多言語教育の可能性を学術研究や教育現場の事例から探る【教育シンポジウム】

3月13日(水) 19:00~ アルカディア市ヶ谷 私学会館

多言語教育を提唱するヒポファミリークラブ(運営/一般財団法人 言語交流研究所、本部/東京都渋谷区、代表理事/鈴木堅史)は、ことばの自然習得や多言語教育の最新事情、グローバル人材が育つ環境などについて理解を深めていただくため、3月にイベントを開催します。3月10日(日)は16~25歳の若者による「多言語プレゼンテーション大会」、3月13日(水)は多言語教育の最新動向を学ぶ「教育シンポジウム」を開催します。

若者による多言語プレゼンテーション大会 第6回 LMP Youth TOKYO (LEX Multilingual Presentation for Youth TOKYO)



英語が世界の共通語という考え方が浸透する中で、「出会うことばも大切にしよう」「どんな人にも心を開いて話そう」という思いで、ヒポファミリークラブの学生会員有志が立ち上げたのが、この多言語プレゼンテーション大会です。過去5年間の歴史を重ね、会員以外にも開かれたものになりました。企画運営は、立ち上げ当初から現在まで、学生有志による実行委員会が行っています。これまで壇上に登場した若者たちは、のべ169名にのぼります。1,000名を超える聴衆を前に行う多言語プレゼンテーションでは、外国語が話せるだけでなく、自らの体験を自らのことばで魅力的に語る能力が必要です。ここで得られた自信が、その後の彼らの活躍に繋がっていることは想像に難くありません。



第6回の今年も、日本、韓国、アメリカ、モンゴルなど7カ国から総勢31名の若者が登壇します(高校生部門16名、大学生・社会人部門15名)。自分自身の多言語体験に基づき、多様な価値観への気づきや、異なる文化を受容する感覚、世界で生き抜くための主体性の大切さなどを、自らのことばで社会へのメッセージとして発表します。優秀者は海外体験や留学などヒポファミリークラブが提供するプログラムに参加できます。

- 日時: 3月10日(日) 10:00~16:00 (開場9:30)
10:00~12:50 高校生部門/13:15~16:00 大学生・社会人部門
- 場所: 東京ビッグサイト 国際会議場(東京都江東区有明3-11-1)
りんかい線「国際展示場」駅・徒歩約7分
ゆりかもめ「国際展示場正門」駅・徒歩約3分
- 審査: メッセージ性、多言語、プレゼンテーションを基準に各分野の専門家が審査
審査員/スザンヌ・フリン(マサチューセッツ工科大学 教授)、
酒井 邦嘉(東京大学 教授)、大和田 康之(レドランズ大学 名誉教授) 他



教育シンポジウム「グローバル社会における多言語の可能性」 ～最新の言語研究と教育現場の事例から考える～

国際化やAI（人工知能）の革新により、社会環境が大きく変革している現在、日本も多文化・多言語の世界へと変化してきています。訪日観光客も急激に広がり、日本の企業でも様々な国籍の方が働き、学校や地域にも様々な家庭環境を持った子どもたちがいる状況が生まれています。このような社会で、私たちは、どのように「ことば」の教育に取り組めばいいのでしょうか？

このシンポジウムでは、言語学や言語脳科学の専門家による研究発表が行われ、あわせて学校の外国語教育の事例と、家庭で取り組まれている多言語活動の事例が報告されます。人間が言語を獲得するメカニズムや、幼いころから多言語に触れる環境が第二言語習得にかかる脳のストレスを軽減する理論などについて、各分野の専門家が講演します。主にことばや外国語、多言語に取り組む教員や専門職の方を対象にしたシンポジウムです。

- 日時：3月13日（水）19：00～21：00（開場18：30）
- 場所：アルカディア市ヶ谷 私学会館（東京都千代田区九段北4-2-25）
JR・東京メロ・都営地下鉄「市ヶ谷駅」・徒歩約2分



基調講演・約20分



「人間の言語能力は無限」 スザンヌ・フリン マサチューセッツ工科大学（MIT） 教授 言語学／多言語獲得研究

幼少から母語以外のことばを獲得する人間の能力について興味をもち、1983年にコーネル大学で学位を取得。現在、米国マサチューセッツ工科大学で言語学および多言語獲得研究の第一人者として活躍中。ノーム・チョムスキー博士（1928年～）の学説として有名な「生成文法理論」も含め、40年以上にわたり人間の言語獲得の秘密や多言語のもたらす効果について研究。

リレートーク（各分野の専門家による研究と事例報告）・各10～15分



「脳に自然なことばの習得とは？」 酒井邦嘉 東京大学大学院総合文化研究科 教授

1964年生まれ。東京大学理学部物理学卒業。同大学大学院理学系研究科博士課程修了。理学博士。専門は言語脳科学。言語という究極の難問に脳科学の視点から挑んでいる。
著書：『言語の脳科学』（中公新書）、他多数。



「Language and communication（言語とコミュニケーション）」 大和田康之 レッドランズ大学 名誉教授／EngageAsia 財団 理事

1934年生まれ。国際基督教大学（ICU）1期生卒業。米コロンビア大学で博士号を取得。ICUでは学長補佐を務めると同時に教鞭もとるなど創設期に貢献した。現在は米国在住。これからの担う真のリーダーシップに必要なものは「多言語を話す」というスタンスである。



「多言語コミュニケーション」 森田明彦 尚絅学院大学現代社会学科 教授

1958年生まれ。東北大学文学部卒。博士（学術、早稲田大学）。外務省、国際連合開発計画、財団法人日本ユニセフ協会（広報室長）、東京工業大学（特任教授）などを歴任。大学で多言語体験授業などにも取り組んでいる。著書：『人権をひらく—チャールズ・テイラーとの対話』（藤原書店）



「多言語の多様な音の波に浸る」 鈴木堅史 一般財団法人 言語交流研究所 代表理事／LEX America 理事

1944年生まれ。早稲田大学政治経済学部卒。1981年、多言語活動を提唱した神原陽氏とともに、言語交流研究所・ヒッポファミリークラブの創設に参画。1987年より理事。1998年から2002年、アメリカに渡り、ニューヨーク、ボストン、メキシコなどで多言語活動の実践を世界に展開。

*他、英語教育の現場に携わる教員の方々の登壇も予定しています。

清水れい子 元 国際武道大学 教員
小林雄二 元 群馬県立中学校 校長

【報道関係お問い合わせ先】 ヒッポファミリークラブ 広報室

E-mail: kouhou@lexhippo.gr.jp

TEL:03-5467-7041（代表電話のため受付は9：00～17：30となります。予めご了承ください）